

基準Ⅷ 地域社会／国際交流

〈地域社会〉

観点Ⅷ-1-1 社会との連携において、地域のニーズを把握し、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っているか

点検Ⅷ-1-1-1 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。

点検Ⅷ-1-1-2 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。

【観点に係る状況】

理念にある「地域との連携重視」に伴う活動として、平成17年度から、5月の看護週間に学校祭を開催し、地域から300名程度の参加者がある。この学校祭では、健康チェックや健康相談、育児や介護に関する体験などを通して、看護教育活動を理解してもらうと同時に、地域住民の健康教育に繋いでいる。

【分析結果とその根拠理由】

地域に対して学校の存在や看護教育活動を示すことにより、地域住民からの関心、理解は高まってきている。今後は更に地域の中での看護学校の活用に対するニーズの把握体制をもち、附属病院との連携も図って組織的に展開していく。学校行事は、閉校までに年々学生数が減少していく状況ではあるが、学生の主体的な運営により学校祭、クリスマス会と例年と同じような催しを開催できている。これは地域の住民の支援の賜物であり、少人数であっても主体的に行動する学生のリーダーシップが発揮されているといえる。

観点Ⅷ-1-2 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段、養成所から地域社会への情報を発信する手段を持っているか

点検Ⅷ-1-2-1 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。

点検Ⅷ-1-2-2 養成所から地域社会へ情報を発信する手段を持っている。

【観点に係る状況】

ホームページを開設し、教育活動をタイムリーに発信している。また意見の書き込み欄も設けている。高槻市との連携を図り、広報誌への掲載や、ケーブルテレビやタウン誌の取材に応じるなど積極的に連携を図っている。地域社会のニーズを把握する手段に関しては大阪医科大学や附属病院との連携の中でニーズの把握を行っているが、看護専門学校独自にニーズを把握するには至っていない。

【分析結果とその根拠理由】

新校舎設立を機会に「地域に広がる看護学校」を目指して様々な活動を展開している。活動5年目を向かえ存在が認められてきていると実感している。

各年度の学校行事は、閉校を迎えるに当たり「続けてほしかった」とのご意見をいただけるまでになっている。学生の至らなさを、地域支援と言う暖かな形で受け取ることができており、地域への知名度もアップしていると考えられる。

観点Ⅷ-1-3 地域社会の特徴を把握し、地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れているか

点検Ⅷ-1-3-1 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。

点検Ⅷ-1-3-2 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。

【観点に係る状況】

高槻市は中核都市に指定されており、大阪医科大学附属病院は特定機能病院であるとともに、地域における住民の健康を支える役割を持って長い伝統を育んできている。人間の生から死まで、対象と対象を取り巻く家族・地域・社会を捉えるために、在宅看護論実習では、地域の訪問看護ステーション実習、デイケア施設実習を取り入れ、大阪医科大学附属病院との継続医療・看護の継続性を理解できるようにしている。また精神看護学実習においてもデイケア施設の実習を行い、地域におけるところを病む人の受け入れと連携の理解を促している。

また、ボランティア活動を社会福祉科目の一環として導入し、ボランティア委員会を中心に、地域の特性を理解する機会を自主的に持つように働きかけている。また、障害者施設の行事に参加する等の活動も行っている。学生は目的を持って、教育保育施設・社会福祉施設・保健施設など様々な体験をし、体験をレポートとして提出している。今後は高齢者の増加、疾病構造の変化それに伴う医療体系の変化を受けて、老年看護学においても様々な施設における実習を導入すると同時に、それらの施設との関係を構築しボランティアへの積極的姿勢をはぐくんでいけるように実施してきた。

【分析結果とその根拠理由】

地域特性の理解、附属病院がおかれている状況の理解は領域実習を通して体感することができている。また、学校行事・ボランティア機会を通して住民との関わりを持つことで、地域の中での看護師の役割認識も3年間を通して構築されつつある。更に地域社会の特徴を把握し、地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れていくことができるように考え実施している。

〈国際交流〉

観点Ⅷ-2-1 国際的視野を広げるための授業科目を設定しているか

点検Ⅷ-2-1-1 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。

【観点に係る状況】

授業科目としては設定していないが、例年特別講義として「外国の看護の実態に関する」内容をテーマとして選定している。また、海外からの訪問・見学等を積極的に受け入れ、機会を捉えて学生との交流の場を設定しており、留学の経験をしている学生や、外国語を得意としている学生は積極的に関わりを持っている。また卒業生の中で様々な体験をしている人を特別講義の講師として招き、体験談を聴く機会を設けている。

【分析結果とその根拠理由】

新カリキュラムには看護基礎教育への視野の拡大に繋がるような「国際看護」の視点をどのように織り込むかが課題であった。海外からの訪問・見学、情報収集の機会は、学生への国際的感覚や意識、今後の活動の動機づけを促す機会となっている。新カリキュラムの実施が1年限りであり、振り返りと改善点を実施できない

が、東日本大震災を機会に、学生・教員へ災害時の安全確保の意識付けした。

観点Ⅷ-2-2 国際的視野を広げるための自己学習システムが整っているか

点検Ⅷ-2-2-1 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。

【観点に係る状況】

該当内容なし

観点Ⅷ-2-3 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制があるか

点検Ⅷ-2-3-1 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。

【観点に係る状況】

該当内容なし

観点Ⅷ-2-4 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制があるか

点検Ⅷ-2-4-1 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。

【観点に係る状況】

該当内容なし

2. 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

地元行政の広報室との連携や各種メディアの取材申し込みを積極的に受けることによって地域のニーズを把握している。また、各種学校行事への地域住民の参加を求め、学生が地域の健康啓発に参加すること、あるいは健診や特定の疾患のキャンプなどに学生がボランティアとして参加することによって、看護教育を通して地域に貢献している。国際交流では大学医学部の中山国際医学医療交流センターの運営委員会に学校長が出席し、学校として国際交流の一端を担っている。

【改善を要する点】

大学医学部の行事等への積極的な参加が必要である。又、国際交流について積極的な交流事業を主催できる素地を醸成する必要がある。

平成 22 年度より、看護学部が設置され、看護学校の学生達は同じ敷地を共有しながら過ごすこととなった。ボランティアの呼びかけや学園祭への参加勧誘など学生自身が、看護学部の学生へ呼びかけようとする動きが出ている。様々な交流事業への第一歩としての段階である。今後は、呼びかけが期待通りとならなくても何かを計画・企画するための意欲が続くように働きかけ指導を続ける必要がある。

平成 23 年度は、在校生が 3 年生のみとなり、行事自体の規模の縮小や、人数配分等、学生数を補う努力を要している。また行事に関するお知らせを通し、地域住民の協力を仰いでいる。

3. 基準Ⅷの自己評価の概要

財政的に大きな赤字を出しながら、地域社会への関わりや国際交流を強化するには無理があるものと考えられる。現時点では、財政的負担が増えない範囲で、地域社会や国際交流に関する意識の醸成を図ることが重要であると思われる。